

夢の設計図

やりたい仕事や実現したい夢 **医師(小児科)** その仕事や夢を選んだ理由
 子供のときに、助けてもらったので、今度は私かたたくさんの人を笑顔にしたいから。

その仕事や夢を実現するために必要な条件(資格など)や力、お金はなんだろう
 患者さんと話すためのコミュニケーション能力・礼儀・マナー・医師になるための学力・知識・技術・継続的に学びつづける向上心・冷静な判断力・洞察力・予期せぬ事態にも対応できる柔軟性。

年齢	必要な能力を身につけるためにやること
12才	小学校 勉強の習慣をつける、体や医療に関する本を読む、好奇心、思いやり、やさしさを大切にする。
13才	中学校 志望校に合格する、医師の仕事を知り、ノートをつくり、自分でスケジュールをたてる。
16才	医療体験に参加してみる、理系科目をしっかりと勉強
18才	医学部志望の理由を深める、受験情報の収集
19才	国公立の医学部に入学
24才	医学部卒業、医師国家試験を合格し、医師免許取得
26才	臨床研修終了、医師として、本格的に働き始める
26才	目の前の患者さんを救う。
26才	新しい治療法や薬の開発。
26才	病気の原因究明
26才	患者さんの心によりそう

仕事以外であなたが大人になったらやってみたいこと、実現したいこと
 ・1-ベル賞をとる
 ・感染症を治す方法をみつける

私が医師になる理由

大阪教育大学附属天王寺小学校 五年 樋上 裕香里

私は二歳の頃、小児リウマチを発症しました。朝起きると手や足の関節が痛くて動かせませんでした。幼稚園に行けない日も多く、病院で注射を受けるたび、泣いていました。でも先生はいつも、「がんばったね。」と優しく声をかけてくれました。看護師さんは注射のあと、可愛

いシールをはってくれました。病院に行くのがいやだったけれど、だんだん「先生に会いに行こう。」と思えるようになりまし。先生が笑顔で迎えてくれること、がんばったねと言ってもらえること、それが私の支えになっていました。病院は怖い場所ではなく、私を応援してくれる場所だったので。

六年間、私は治療を続けました。足が痛い日も、学校を休まなければならぬ日も、諦めずに通院しました。そして、小学二年生のとき、先生が嬉しそうに「寛解だね、経過観察にしましょう」と言っ

てくれました。寛解とは、病気の症状が落ちついて、良い状態が続いているということ。完治ではないけれど、もう毎日通院しなくても良くなりました。六年間頑張ってきた本当に良かったと思いました。

最近、ニュースでAIが病気を発見したりロボットが手術をしたりする話を聞きました。みんな、

「将来、AIが医者の仕事をするかもしれないね。」

「じゃあ、お医者さんっていらなくなっていく？」と言っていました。でも、私はそうは思いません。たしかにAIはすごいですが、私に代わって泣いていたとき、私の頭を優しくなでてくれた先生の手の温かさ。看護師さんが「今日は学校行けたの？えらいね」と笑顔で言ってくれた言葉。「寛解だね」と言ってくれたときの先生の嬉しそうな顔。助けてもらった

命を助けてもらった私だからこそ、今度は私が誰かの命を助ける番です。いつか、小さな患者さんに「よくがんばったね」と言える日を夢見て私は今日も一歩ずつ前に進みます。

うれしかった気持ち。大切な人が助かって、心から良かったと思えたこと。私は、それを絶対に忘れたくありません。だから私はどんな技術が進んでも患者さんの心に寄り添えるお医者さんになりたいです。病気で不安な子どもの手を握って、「一緒に頑張ろうね」と言える先生に。

家族が心配そうにしていたら「大丈夫ですよ」と笑顔で伝えられる先生に。そして、病院に行くのが怖い子が「先生に会いに行こう」と思えるような、そんな先生に。これから先、きつとたくさん勉強しなければいけません。夢に向かって進むのは大変かもしれませんが、病気が治るのに時間がかかってもお母さんと先生たちが諦めずに私を守ってくれたこと。六年間病気と闘って寛解にたどりつけたこと。そして、元気になった弟の笑顔。顔を思えば私は頑張れます。

命を助けてもらった私だからこそ、今度は私が誰かの命を助ける番です。いつか、小さな患者さんに「よくがんばったね」と言える日を夢見て私は今日も一歩ずつ前に進みます。

命を助けてもらった私だからこそ、今度は私が誰かの命を助ける番です。いつか、小さな患者さんに「よくがんばったね」と言える日を夢見て私は今日も一歩ずつ前に進みます。

*こちらは、小学生『夢をかなえる』作文コンクールの「ライフプランシート」としても使えます。